

# 日本で暮らしたい

地域に暮らす 外国ルーツの人達とその家族

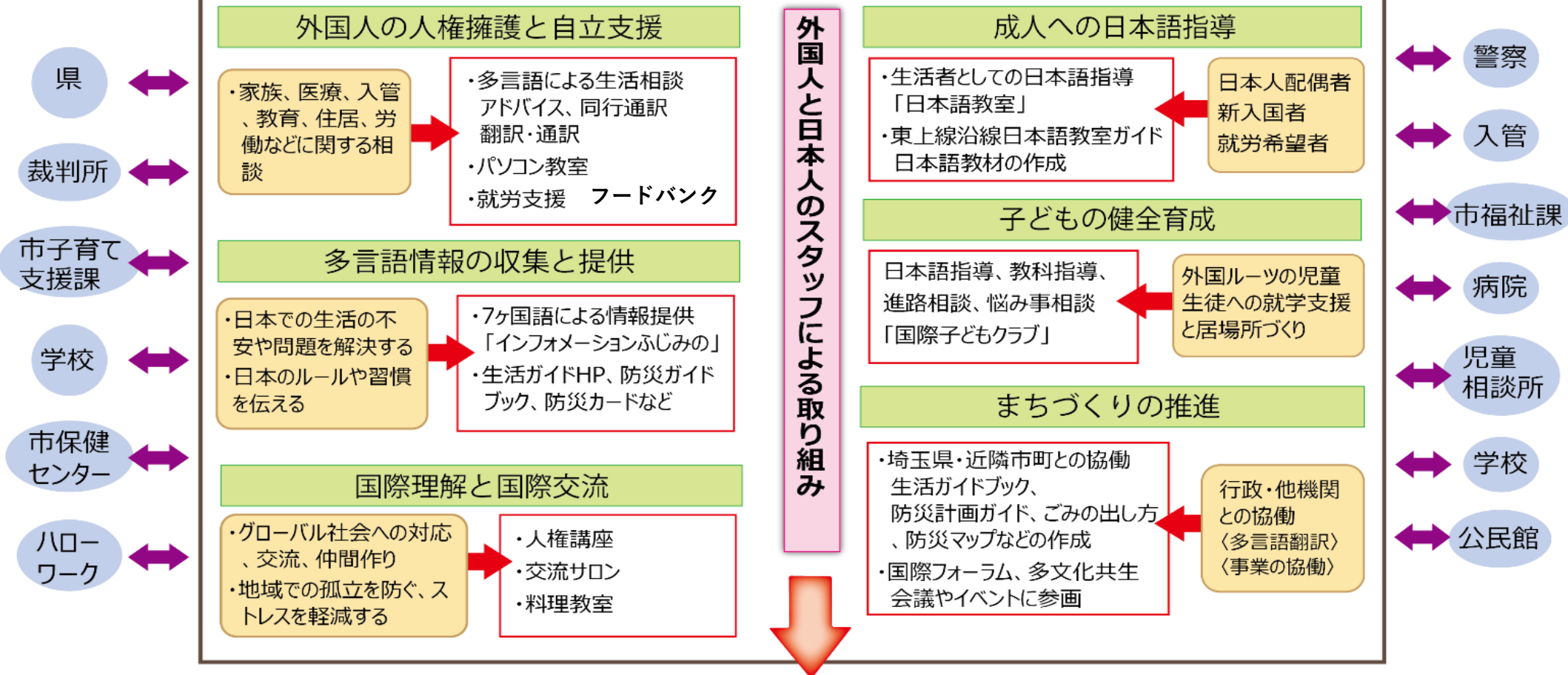


NPO法人ふじみの国際交流センター  
2023年1月28日 山畑 博子

問題を抱えた外国ルーツの人たち



# ふじみの国際交流センター



日本での円滑な社会生活

# 日本の社会を支えている多くの外国人

- ・ 少子高齢化による人手不足で、多くの外国人の労働力に頼っている。
  - ①産業別でみる外国人労働者が多いのは、**製造業 26万人 (全国)**
  - ②**若者世代**でみる外国人の割合 (20代~30代)
    - 農業** - 14人に1人      **漁業** - 16人に1人
    - 製造業** - 21人に1人      は、外国人 (2016年の国勢調査)
- 「外国の人に来てもらわなければ、首都圏から野菜が消える」
- ・ 外国人の増加で人口が増えた市町村
  - 1位 **豊田市**   2位 **蕨市**   7位 **所沢市**   11位 **坂戸市**   34位 **三芳町**
- ・ 年間新規入国者数 (OECD報告書)
  - 1位ドイツ   2位アメリカ   3位イギリス   4位**日本 (427,600人)**
- ・ 外国の子どもが増加した市区町村
  - 1位 出雲市   3位 **蕨市**   9位 戸田市   11位 志木市   12位 川口市
  - 15位 越谷市   27位 草加市   30位 さいたま市   31位 富士見市   32位 朝霞市
  - 35位 川越市   49位 ふじみ野市

# 生活 相談

## 相談者の国籍

フィリピン・中国・バングラデシュ・ネパール・パキスタン・スリランカ・タイ・インドネシア  
カメルーン・モンゴル・インド・セネガル・ブルンジ・アメリカ・コンゴ・マレーシア・メキシコ・  
イラン・ウガンダ・ガーナ・ブルキナファソ・コロンビア・台湾・ブラジル・ミャンマー・ナイジェ  
リア・カザフスタン・ケニア・スペイン・フランス・ペルー・ロシア・イタリア・日本

年間577件

2022年12月

項目	件数	内容
保険医療	41	医療費、入院手続き、社会保険、健康保険、コロナワクチン、PCR検査
出産子育て家族	39	出産、離婚、夫婦トラブル、DV、ゲーム依存、保育所入所
教育	194	不登校、学校との連絡、日本語&学習支援、入園・入学・進学手続き
日本語言語	69	翻訳、通訳、代筆・日本語検定試験勉強・
司法年金税金	15	納税証明、犯罪、交通事故訴訟、国民年金手続
住居	40	住宅探し、引越、県営住宅申し込み手続き、近隣トラブル
生活	43	生活費、生活保護、近隣関係、給付金、貸付金、交通事故、帰化申請
入管手続	36	ビザの申請、更新、帰国、保証人・子の呼び寄せ・子の国籍取得・難民申請
雇用労働	30	求職・転職 会社とのトラブル、技能修得、労働災害

## 使用可能言語

日本語、英語  
スペイン語  
中国語、  
タガログ語、  
韓国語

その他、登録通  
訳ボランティア  
に随時依頼

通訳タブレット  
使用

# 地域で暮らす外国ルーツの親と子ども

## 中国の親と子ども達

- 1 都市部出身
  - \* 親 日本語が堪能 日本企業勤務か自身が経営者
  - \* 子 家族で来日 熱心 塾やお稽古通い 子に良い教育を
- 2 農村部出身
  - \* 親 日本語は話せない 複雑な家庭環境 中華料理店勤務
  - \* 子 呼び寄せ 小学校高学年、中学校からの転入が多い
- 3 共通点
  - \* 学習意欲が高い 良い教育を子に与えたい 教育熱心

## フィリピンの親と子ども達

- 1 定住希望者
  - \* 親 日本語は出来ないが英語が堪能 塾や学校の英語教師が多い
  - \* 子 日本語の習得に時間がかかるが、あきらめず頑張る
- 2 出稼ぎ
  - \* 親 日本語が出来ない 母国で教育を受けていない
  - \* 子 母国で教育を受けていない バイトをしてお金を稼ぎたい
- 3 共通点
  - \* 大家族制度の中で育つ 片親家庭が多い 母国に仕送り

# その他の地域の子ども

## ネパールの親と子ども達

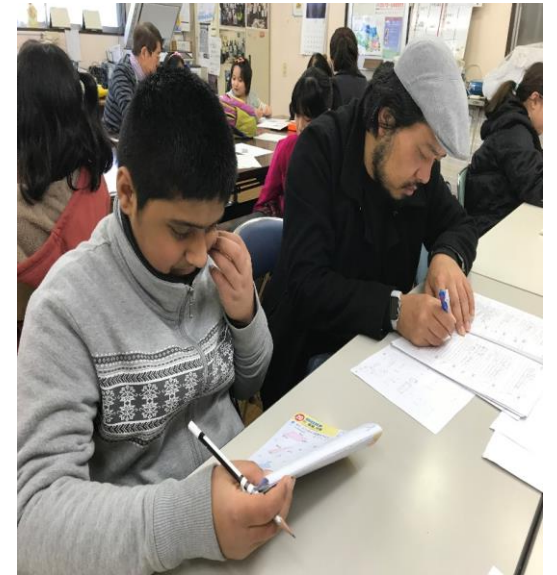
- \* 親 ほとんどがインドカレー店の店員（父親）  
店主と店員では、収入に大きな違いがある  
近所の野菜工場で働く（母親）
- \* 子 男子→学校を卒業後 カレー店で働く  
高い教育を受けさせ、高校や大学に進学させたい  
女子→親が教育にはあまり熱心でない  
母国の家族へ仕送りをする

## パキスタンの親と子ども達

- \* 親 一族で自動車販売を生業としていることが多い。
- \* 子 一族の仕事を受け継ぐ  
助け合いの精神がとても強い。

## アフリカ （最近増加中）

- \* 単身で来日→難民申請中や特定活動の制限のある仕事が多い  
母国の家族へ仕送りをする



## 日本で暮らす外国人の為の施策が不十分

- 在住外国人に対する担当省庁（入管庁）→設立 2019年
- 義務教育年齢の子どもの学校への受け入れ（文科省）  
→ 希望すれば受け入れる 2019年
- 日本語の読み書きができない人が多い。学歴小卒の外国人約2万人（2020年国勢調査）  
→2026年までにすべての都道府県に夜間中学校を増設する（文科省）
- 学校や市役所の書類が読めない → やさしい日本語の使用を 2011年震災後広まるが、、、
- 日本語指導の制度がない → 制度の拡充と無料の日本語教室に国の支援を
- 就業の選択の幅が狭い・職業訓練の機会がない・ビザによる就業制限が多い  
→ 職業訓練の施設を作る。就業支援の仕組みを作る
- 気軽に相談したり集まれる所がない → 居場所作りが必要
- 地域との関係が希薄 日本人の知人友人が少ない  
→ 地域の住民として受け入れる
- 公共施設が個人では利用しにくい → 手続きの簡素化を
- 外国人が活躍する場所を提供する事が必要→地域での交流を考える
- 年々増え続ける難民申請者とどう向き合うか、  
国の施策として外国人をどう受け入れるか考える必要がある

生活相談で気がついた事



# 日本で暮らす**全ての人達に** **日本語と学校教育**を受ける場の保障を

## ➡ 1 夜間中学の増設 学校に転入前の準備教育制度の確立を

2020年国勢調査 学歴小卒の外国人2万人 50歳代以下に多い。

- ・小中学校転入前のプレスクール制度の設立
- ・夜間中学校の増設
- ・各地の日本語教室への補助
- ・各種資格獲得の支援を

## 2 外国ルーツの生徒が通う学校に日本語学習の支援を

小中学校は、改善されてきている。次は高校への支援が必要

## 3 高校受験を目指す外国ルーツの生徒が学習する場所増設を

- ・学習する場所と先生の確保
- ・友達が作れる居場所の設置
- ・思い切り体を動かす場所 運動施設の整備

< 居場所すら見つからず、帰国を考えざるを得な

大勢の十代後半の若者がいる。 >

